

# 米づくり情報 (NO. 3)

令和3年6月29日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	3	21.9	23.6	26.5	27.1	18.2	21.2	48.2	36.0	22.1	12.3
	4	22.4	22.3	26.8	26.2	19.0	19.6	67.9	38.5	19.6	24.6
	5	23.1	23.1	27.1	28.7	20.0	18.8	85.9	0.0	16.0	51.7
	6	24.0	-	27.7	-	21.1	-	95.6	-	14.1	-
7月	1	24.8	-	28.4	-	22.0	-	97.6	-	15.6	-
	2	25.5	-	29.2	-	22.6	-	84.3	-	19.2	-
	3	26.1	-	30.0	-	23.1	-	59.0	-	23.5	-

【6月3半旬～5半旬の気象概況】

- ・気温は、平年並み～1.7℃高く推移し、日照時間は平年比 154%と多照傾向で推移した。
- ・降水量は平年よりかなり少なく、平年の37%となった。

## 2 生育状況 (6月29日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	40.3	365	8.2	40.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年よりやや低い</li> <li>・莖数は、平年よりやや多い</li> <li>・主稈出葉数はよりやや少ない</li> <li>・葉色はやや淡い</li> </ul>
	平年値	46.8	329	9.0	42.8	
	平年比	86	111	-0.8	-2.4	
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	16.2	69	4.3	23.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年より並み</li> <li>・莖数は、平年より並み</li> <li>・主稈出葉数は、平年並み</li> </ul>
	平年値	17.2	76.4	4.5	-	
	平年比	94	91	-0.2	-	
たんぼの夢 6/15 移植 松浦町桃川	本年値	19.8	109	5.9	37.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年並み</li> <li>・莖数は、平年より多い</li> <li>・主稈出葉数は、平年並み</li> </ul>
	平年値	19.2	80	5.2	-	
	平年比	103	137	+0.5	-	

(耕種概要)

品種	年次	苗質		移植日 (月日)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	備考
		苗丈	葉令			
ヒノヒカリ	本年値	14.3	2.2	6月20日	17.3	前作 大豆
	平年値	13.0	3.3	6月20日	16.6	前作 水稲
たんぼの夢	本年値	11.4	2.1	6月16日	18.7	前作 水稲
	平年値	13.2	2.9	6月19日	17.3	前作 水稲

※夢しずくの耕種概要は、稲作情報 No.1 を参照。

### 3 今後の管理

#### 1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・まもなく幼穂形成期を迎える。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参照し穂肥を施用する。
- ・梅雨入りしたものの晴天が続いているため、落水を避け湛水状態を保つよう注意する。また、いもち病常発地帯では、発生状況をこまめに観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

《夢しずく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
<b>73cm以下</b>	<b>3.0~3.5</b>	<b>38以下</b>	<b>20~18日前</b>	<b>2 mm</b>	<b>3.0</b>	<b>18 kg</b>
	3.5~3.8 3.8以上	38~39 40以上	15~14日前 晩限は止葉抽出終了まで	10~15mm	1.5~2.0 1.0以下	10~12kg 6 kg
73~79cm	3.0~3.5 3.5~3.8 3.8以上	34以下 38~39 40以上	20~18日前 15~14日前	2 mm 10~15mm	1.5~2.0 1.0	10~12kg 6 kg
80cm以上	原則として施用しない					

#### 【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

#### 2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・有効茎（1 株当たり 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ガス対策として移植後 15 日、25 日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・中干しは約 1 週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、中干しを強めにした圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- ・移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤等による防除を実施する。



参考 夢しずく茎数

左 18 本 右 17 本  
(間もなく中干へ移行)

左 29 本 右 23 本  
(ただちに中干へ移行)

### 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・除草剤処理後 1 週間経過した圃場は、浅水管理に移行し莖数確保に努める。

※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壤に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても 1 週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、高温と乾燥によって白乾してきた場合は、かけ流しはせず、黒乾状態を保つ程度に入水を行う。

- ・7 月に入ると、まとまった降雨が予想されている。大雨の際は水尻を低くし長時間の冠水避ける。

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策として、浅水管理とスクミノン（1～4 kg/10a）散布を併せて行い、貝の食害活動を抑制する。

### 4) 共通

#### （いもち病）

- ・6 月 23 日までの BLASTAM 情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では 6 月 17、18 日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された 1 週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- ・圃場内に放置されている補植苗で「いもち病」や「ごま葉枯病」の発生が確認されている。発生源となるおそれがあるため、すみやかに除去する。



6/28 圃場の置き苗で確認されたごま葉枯病



6/25 度圃場の置き苗で確認されたいもち病

#### （ウンカ類）

- ・佐賀県嬉野市では、5 月 11 日に 1 頭のトビイロウンカの飛来が確認されている（6 月 24 日時点）。梅雨明けまでは、飛来の可能性があるため、引き続き発生状況に注意する。
- ・防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。

（※長崎県諫早市、佐世保市共に、6 月 3 日にトビイロウンカ 1 頭の誘殺が確認されている。）

# 令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業改良普及センター

